



証券コード:7774

第11期(平成21年3月期)

第2四半期 決算説明資料

平成20年11月18日



株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

<http://www.jppte.co.jp>

目次

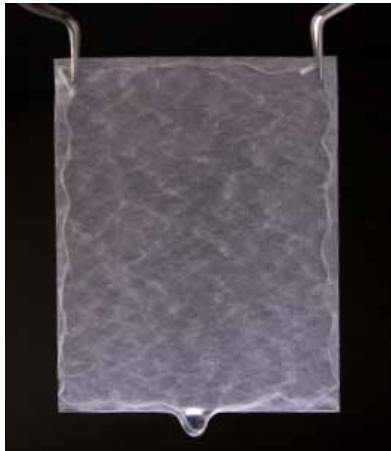
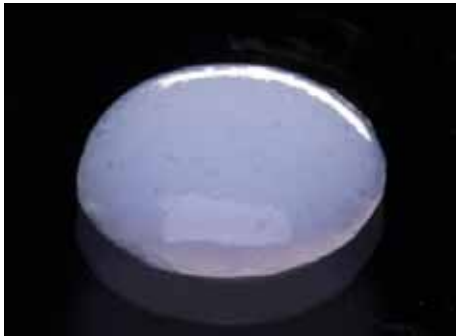
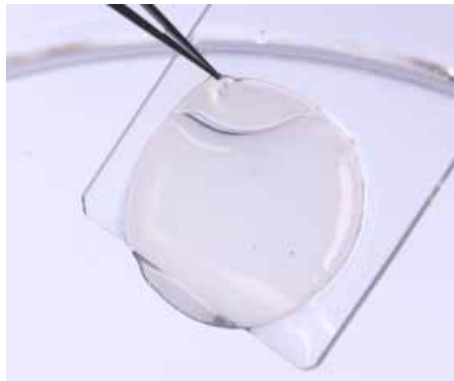
❖ 事業概要	---	2
❖ 第11期 第2四半期の業績	---	10

再生医療製品事業

自家培養表皮

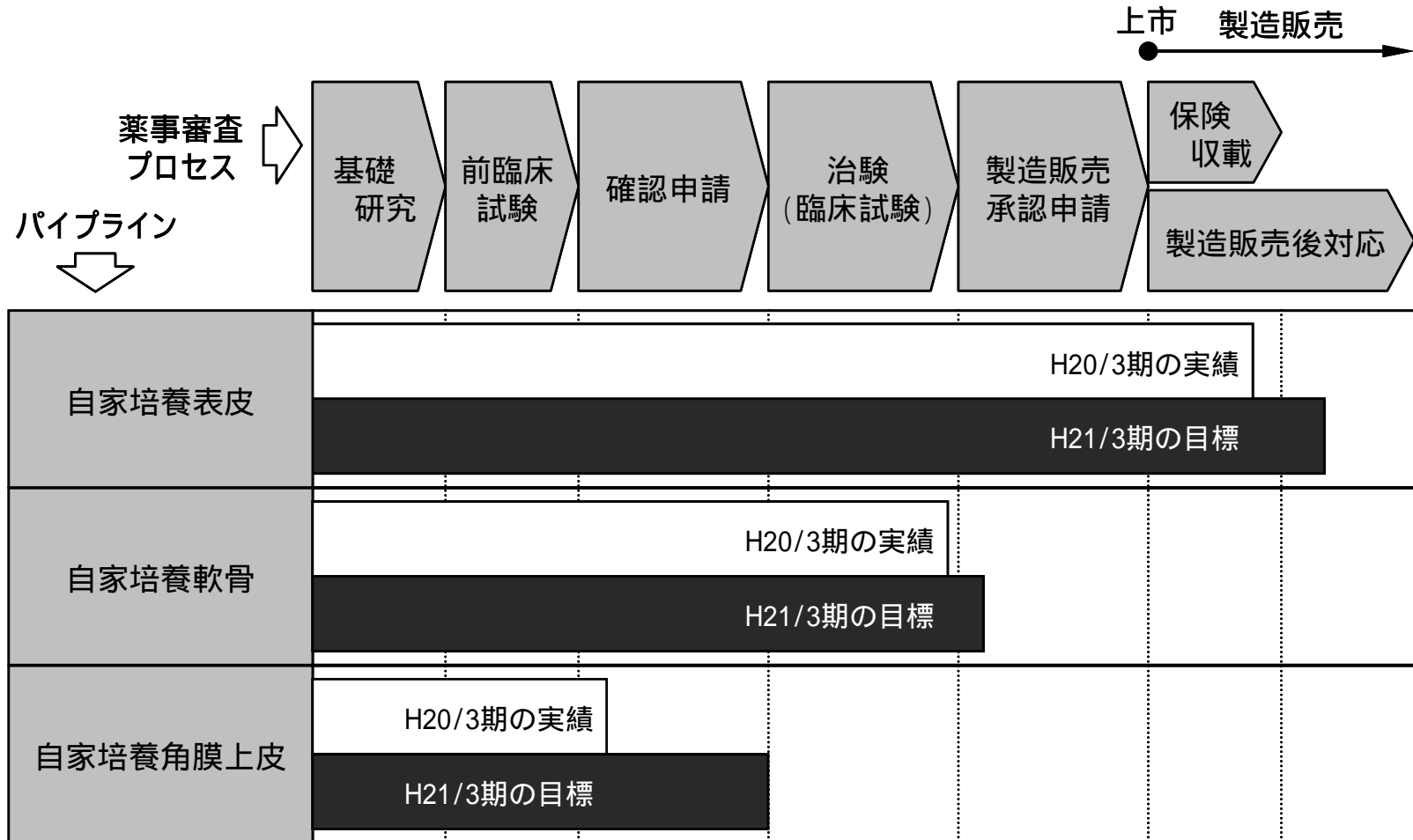
自家培養軟骨

自家培養角膜上皮

<p>開発製品の 外観</p>			
<p>基礎研究 を主導した 協働者</p>	<p>名古屋大学 上田 実 教授、 米ハーバード大学 Howard Green 教授</p>	<p>広島大学 越智 光夫 教授</p>	<p>伊ベネトアイバンク、 伊モデナ大学 Michele De Luca 博士 Graziella Pellegrini 博士</p>
<p>適応疾患 (軟骨と角膜 上皮は想定)</p>	<p>重症熱傷 (深達性 度熱傷創及び 度熱傷創の合計面積が 体表面積の30%以上)</p>	<p>外傷性軟骨欠損症、 離断性骨軟骨炎、 変形性関節症</p>	<p>化学傷、熱傷、スティーブ ンス・ジョンソン症候群、眼 類天疱瘡、角膜感染症、 再発翼状片</p>
<p>進捗状況</p>	<p>製造承認を取得 (H19.10)</p>	<p>治験終了届書(H19.3) 製造販売承認申請の準備中</p>	<p>確認申請の提出 (H19.5)</p>

平成21年3月期の開発計画

❖ 3つのパイプラインにおいて、主要なイベントを迎える予定である。



出所) マイルストーン開示に係る事業計画について(平成21年3月期～平成23年3月期)(平成20年5月28日開示)

開発計画に係る主要な成果

❖ 3つのパイプラインは、順調に進捗している。

自家培養表皮



保険収載の協議が継続する中で、厚生労働省から6月に追加資料の提出を求められた。
重症熱傷患者(数症例)にジェイスを提供した。必要なデータを取得し、9月に厚生労働省に資料を提出した。
数症例のジェイス提供を通じて、当社の生産体制、品質管理体制、流通体制、市販後調査体制等が正しく機能することを確認した。

自家培養軟骨



製造販売承認申請の提出準備を進めた。
医薬品医療機器総合機構が提供する申請前相談を9月に受けた。現在、指摘事項への対応を進めている。

自家培養角膜上皮



医薬品医療機器総合機構から発せられた照会事項への対応を、網羅的に進めた。
照会事項として、動物を使用したデータも求められた。
技術導入元である伊ベネトアイバンクと技術移転契約を更改し、テリトリー拡大(アジア全域)に成功した。

研究開発支援事業

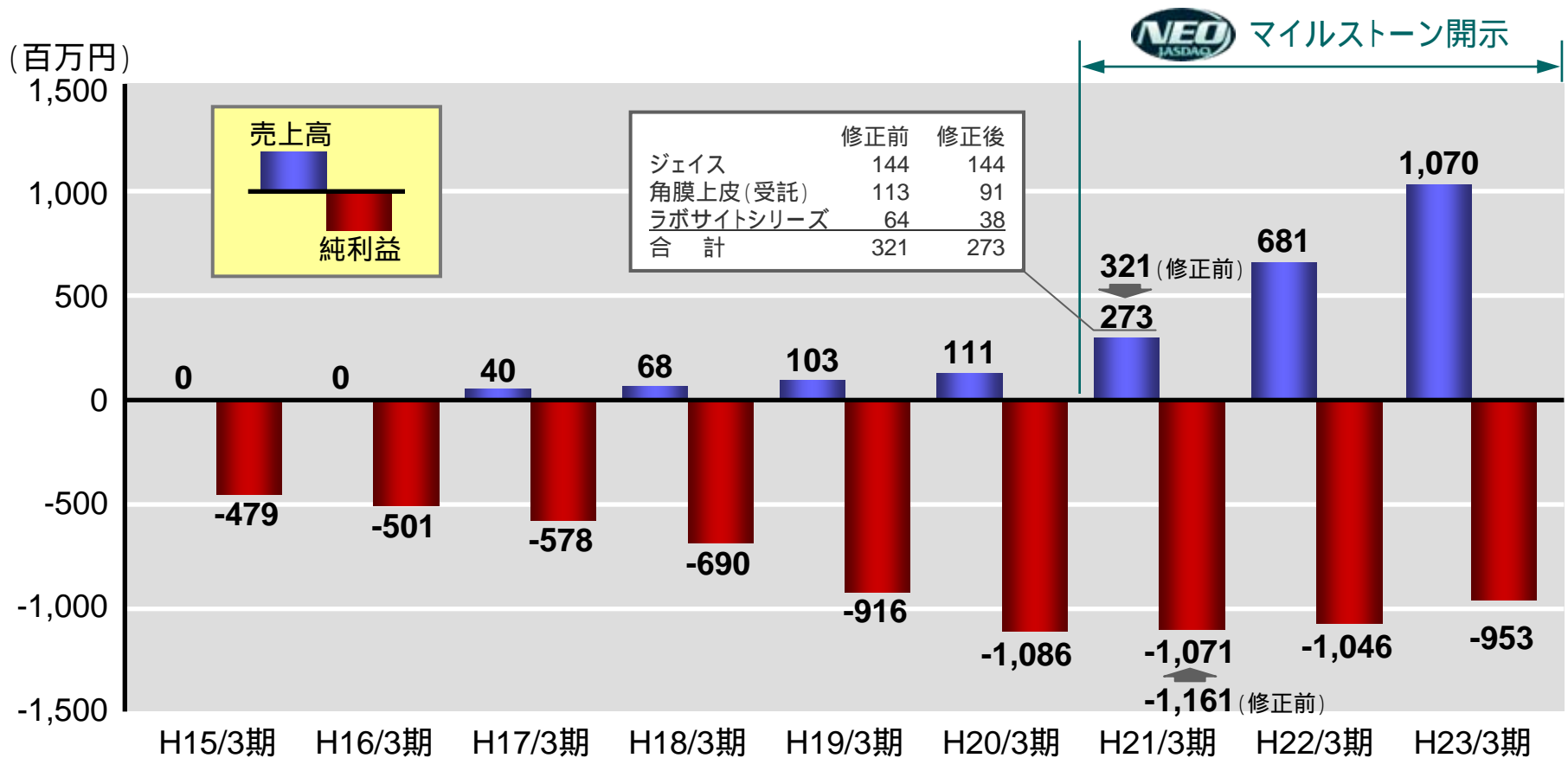
ラボサイトシリーズ



- ❖ 研究用ヒト培養組織ラボサイトシリーズは、外用医薬品や化粧品の開発時に実施する動物実験を代替する。
- ❖ 売上実績(4～9月):16百万円
 - 予算比: 59.1%
 - 前年同期比: 120.6%
- ❖ JaCVAM(日本代替法評価センター)が推進する皮膚刺激性試験の標準化作業(ガイドラインの設定等)が遅れている。
- ❖ 年間売上予算を修正:38百万円

中期売上・利益計画

❖ 平成21年3月期は、売上高を下方修正し、損益は上方修正を行った。



注) 平成21年3月期以降の自家培養表皮ジェイスの販売価格は、当社仮定による。

出所) マイルストーン開示に係る事業計画の修正について(平成21年3月期～平成23年3月期)(平成20年10月15日開示)

設備投資計画について

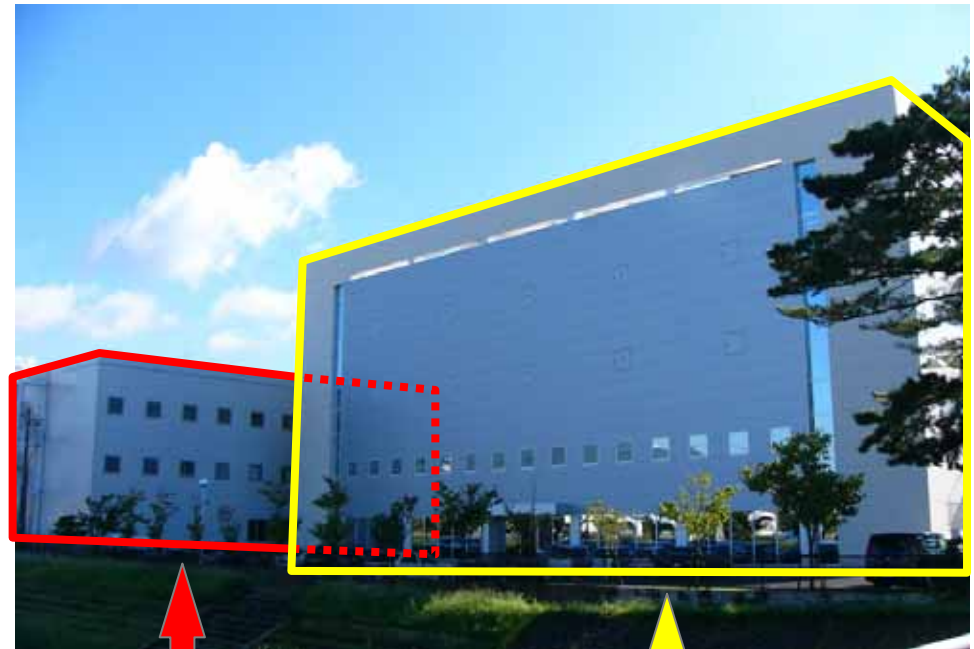
❖ 研究施設の拡張等を目的として、隣接棟の取得を計画している。

❖ 以下の理由により、取得は来期になる可能性が高い。

ジェイス保険収載の動向と販売状況を見ながら慎重に経営判断を行いたい。

取得対象施設の中にある既存設備を移動する等の引き渡し準備に時間を要する。

❖ 取得タイミングが、損益計画に与える影響は軽微である。



取得対象
(含、土地)

当社の資産
(含、土地)

セミナーのご案内

BTJプロフェッショナルセミナー

再生医療「産業化」への鍵

～産業化のための成功要因を探る～

日時	2008年11月26日(水) 10:15 ~ 18:00
主催	日経BP社 Biotechnology Japan
協賛	ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
会場	THE GRAND HALL(東京都港区 品川駅港南口)
受講料	一般 15,000円(税込) 一般申込
	「BTJ/HEADLINE/NEWS」読者 10,000円(税込) 特価申込

第11期 第2四半期 業績の概況

- ❖ 売上高は第10期第2四半期実績より7百万円減少(前年同期比 10%)し、60百万円となった。当期純損失は販管費が増加し、588百万円となった。
- ❖ 販管費の増加(80百万円)の主な要因は、臨床開発及び品質管理部門等の人員補充に伴う研究開発費の増加(65百万円)分である。

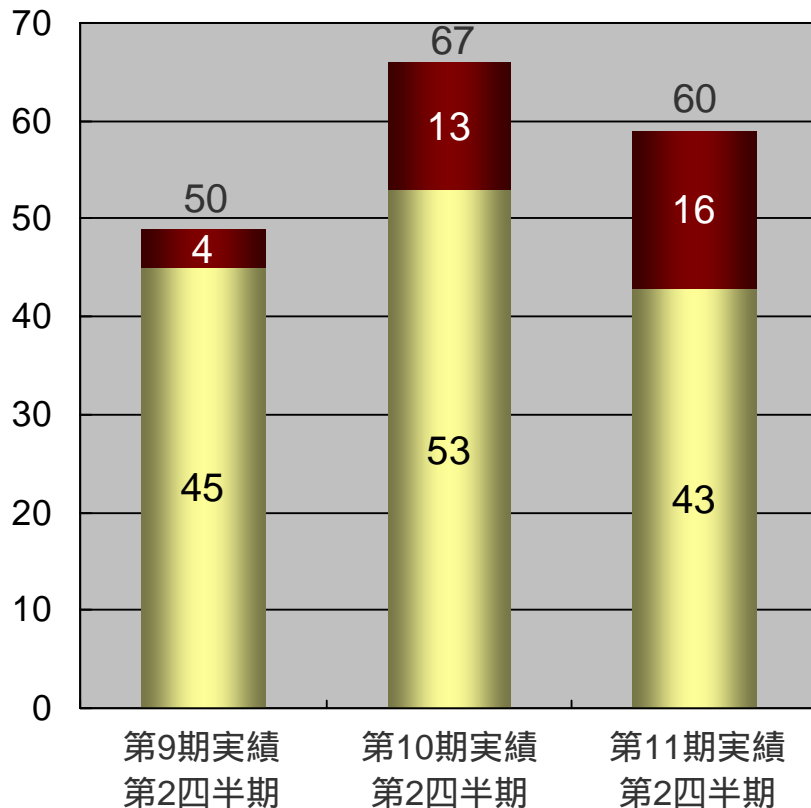
(単位:百万円)

	第10期 第2四半期 実績	第11期 第2四半期 実績	第10期比 増減
売上高	67	60	7
売上総利益	3	3	0
販売費及び一般管理費	488	568	80
営業利益	485	564	79
経常利益	452	570	118
当期純利益	453	588	135

売上推移

(単位:百万円)

■ 研究用ヒト培養組織
■ 受託開発収入



【受託開発収入】

- ❖ 受託開発収入は、自家培養角膜上皮の開発受託元である(株)ニデックからのもの。
- ❖ ベネトアイバンク(イタリア)との技術移転契約が、15万ユーロ(24百万円)相当減額され、主にこれに相当する金額が(株)ニデックからの受託開発収入の減少となった。

【研究用ヒト培養組織】

- ❖ 新規顧客開拓及び品質向上を継続的に展開した結果、第10期第2四半期実績に対して20%増加。(第10期:13百万円 第11期:16百万円)

財務概況(1)

【資産の部】

(単位:百万円)

	第10期 平成20年3月末	第11期 平成20年9月末	増減
流動資産	3,108	2,534	574
現金及び預金	3,036	2,454	582
その他	72	80	8
固定資産	1,194	1,150	44
有形固定資産	1,175	1,129	46
建物	802	771	31
その他	373	358	15
無形固定資産	8	10	2
投資その他の資産	10	10	0
繰延資産	23	18	5
資産合計	4,327	3,703	624

【流動資産】

❖ 営業活動による支出(520百万円)等により、2,534百万円となった。

【固定資産】

❖ 設備投資による増加分(7百万円)と減価償却費による減少分(51百万円)等により、1,150百万円となった。

財務概況(2)

【負債の部】

❖ 長期借入金の返済(48百万円)等により、759百万円となった。(長期借入金残高:386百万円)

【純資産の部】

❖ 当期純損失(588百万円)により、3,703百万円となった。

【負債の部】

(単位:百万円)

	第10期 平成20年3月末	第11期 平成20年9月末	増減
流動負債	278	284	6
短期借入金	96	96	0
その他	182	188	6
固定負債	516	474	42
負債合計	794	759	35

【純資産の部】

(単位:百万円)

	第10期 平成20年3月末	第11期 平成20年9月末	増減
資本金	5,543	5,543	0
資本剰余金	3,373	3,373	0
利益剰余金	5,384	5,972	588
純資産合計	3,532	2,944	588
負債及び純資産合計	4,327	3,703	624

キャッシュ・フロー計算書概況

(単位:百万円)

	第10期 通期	第11期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	981	520
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,922	586
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,540	48
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(:減少額)	1,362	17
現金及び現金同等物の期首残高	2,039	676
現金及び現金同等物の期末残高	676	693

- ❖ 営業活動によるCF: 税引前四半期純損失586百万円等により、 520百万円となった。
- ❖ 投資活動によるCF: 定期預金の払戻による収入(2,360百万円)及び預入による支出(1,760百万円)等により、586百万円となった。
- ❖ 財務活動によるCF: 長期借入金の返済により、 48百万円となった。
- ❖ 現金及び現金同等物の期末残高: 期首残高676百万円に対し、期末残高は693百万円となった。

なお、貸借対照表中の現金及び預金(2,454百万円)との差額は、預入期間が3ヶ月を超える定期預金が含まれていないため。

第11期通期 業績予想

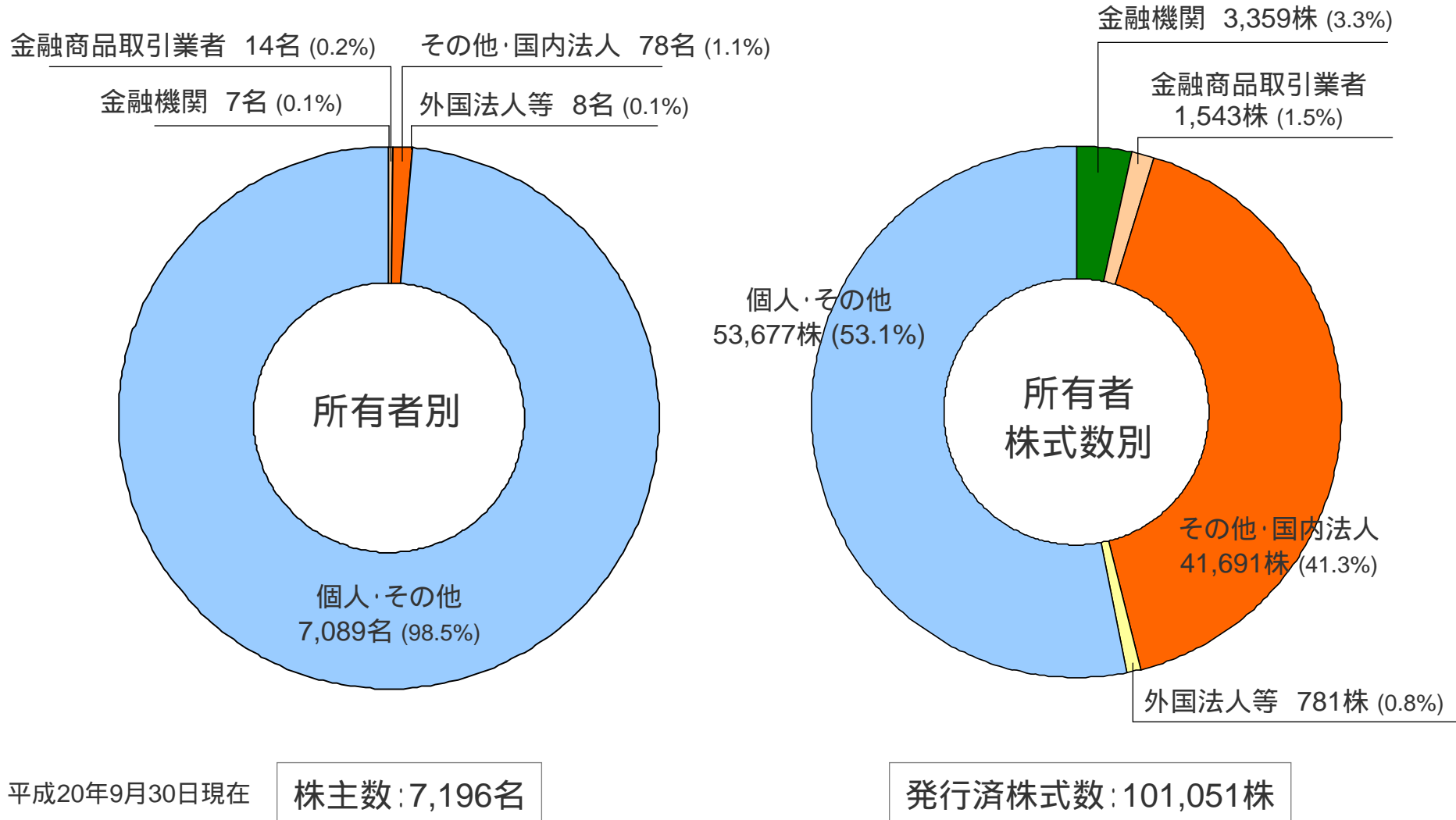
- ❖ 売上高は、自家培養表皮ジェイスの売上により大幅に増加する予定。同製品の研究開発費、製造及び販売費等の増加が見込まれる。その結果、当期純損失は前期とほぼ同程度の見込。

(単位:百万円)

	第10期 通期 実績	第11期 通期 計画	第10期比 増減
売上高	111	273	162
売上総利益	11	108	97
販売費及び一般管理費	1,083	1,146	63
営業利益	1,071	1,038	33
経常利益	1,049	1,051	2
当期純利益	1,086	1,071	15

注) 自家培養表皮ジェイスの販売価格は当社仮定による。

株式の状況



PIR活動について

- ❖ 当社のIR活動方針は『PIR活動』の推進です。すなわち、当社の企業理念である「再生医療の産業化」の実現のため、株主及び投資家へのIR活動に加え、世論形成を目的としたPR活動も積極的に展開します。
- ❖ 上場来、『PIR活動』を精力的に進めるなか、本事業年度上期には当社にとって初めてとなる海外IR活動(ノムラ・アジア・エクイティ・フォーラム2008@シンガポール)を7月に実施しました。また、JASDAQ Value IR Square 2008(7月)、イノベーション・ジャパン2008 -大学見本市-(9月)へ参加しました。
- ❖ 平成20年4月1日～平成20年9月30日の主な「PIR活動」は次のとおりです。



ノムラ・アジア・エクイティ・フォーラム2008 @シンガポール

個人投資家向け会社説明会	7回開催
証券営業担当者向け会社説明会	2回開催
機関投資家等訪問	91件



本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容(事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。)は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6-209-1

経営管理部

TEL. 0533-66-2020 FAX. 0533-66-2019

